

文化庁文化芸術振興費補助金「舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援)」独立行政法人日本芸術文化振興会



京都観世会九月例会

令和5年9月24日(日) 午前11時開演(午前10時開場)



主催 公益社団法人 京都観世会

〈能〉

咸陽宮

大江又三郎

〈狂言〉

鞍馬参り

善竹隆司

〈能〉

仏原

青木道喜

〈能〉

玄象

窠

浦田保親

会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44 (東山仁王門東入)

お問合せ・お申込み

☎ 075-771-6114

<http://www.kyoto-kanze.jp>

WEBサイトの公演情報からご予約が出来ます。



前売券は8月1日(火)より発売致します。

◆WEBで指定席が購入できます◆

一般前売指定席券 (1階)	8,000円
一般前売自由席券	6,000円
一般当日券 (自由席)	6,500円
学生券 (2階自由席)	3,000円

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金です。

京都観世会館案内図



東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

- ◆京都観世会館へは
- JR京都駅から—
- 市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約30分)
- 徒歩約3分
- 市バス[86][206]で「東山仁王門」下車 (乗車時間約30分)
- 徒歩約5分
- 地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」にて東西線に乗り換え「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
- 阪急京都河原町駅から—
- 市バス[31][46][201][203]で「東山仁王門」下車 (乗車時間約15分)
- 徒歩約5分
- 京阪三条駅から—
- 市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約7分)
- 徒歩約3分
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
- JR二条駅から—
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
- 山科・醍醐方面から—
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9~17分)
- 地下鉄東西線「東山駅」から—
- ①番出口から徒歩約5分

京都観世会九月例会

(能)

花陽夫人 大江泰正

侍女 樹下千慧

侍女 松野浩行

始皇帝 大江又三郎

咸陽宮

秦舞陽 福王知登
荆軻 福王茂十郎
大臣 喜多雅人
從臣 中村宜成

間 官人 善竹隆司

(狂言)

鞍馬参り

太郎冠者 善竹隆司

主上 西良介

(十二時四十分頃)

(能)

仏原

仏御前 青木道喜

間 里人 善竹隆平

休憩十五分

(二時半頃)

(能)

玄象

師長 味方 團
施 寺澤 拓海
龍神 河村和晃
村上天皇 浦田保親

間 師長 從者 小西玲央

後見・地謡

(後見) 大江信行
橋本雅夫

河村浩太郎 浦部幸裕
河村和貴 橋本擴三郎
深野貴彦 井上裕久
橋本光史 河村博重

(後見) 上吉川 徹

(後見) 林 宗一郎
杉浦豊彦

谷 弘之助 分林道治
宮本茂樹 河村晴道
橋本忠樹 河村和重
田茂井廣道 吉浪壽晃

(地謡) 樹下千慧
武田邦弘
橋本礒道
吉田潔司

(後見) 大江信行
片山伸吾

梅田嘉宏 河村晴久
松野浩行 古橋正邦
吉田篤史 浦田保浩
橋本光史 越賀隆之

解説

咸陽宮

秦の宮殿咸陽宮は莊重美麗しかも近寄り難い要害であった。そこへ秦の始皇帝刺殺をたくらむ燕國の刺客荆軻と秦舞陽は、懸賞がかげられていた燕の國の地図と樊於期的首を携えて参内する。引見された二人は、始皇帝を捉え、隠し持った剣を突き付ける。皇帝は今生の名残に、寵妃花陽夫人の琴を所望する。夫人は琴歌に託して帝に活路を示す。これを聞いた皇帝は琴の音に聞きほれていた相手隙に乘じ屏風を躍り越えてのがれ、二人を討ち取る。

仏原

都方の僧が白山禪定を志し、加賀の仏原に着くとある草堂に立ち寄ると、女が現れ、当所より出た白拍子、仏御前の引を勧める。女は更に語る「昔、平相國の時、祇王という白拍子は、その寵愛を受けていたが、清盛の心は仏御前に移り、

祇王は髪を下して嵯峨野に庵を結んだ。ところが仏御前も祇王の跡を追い、世を捨てて祇王を訪ねた。加賀より都へ上った仏を清盛に取りなしたのは祇王であった。しかし清盛の心変わりによって捨てられた祇王の身の上に、明日の我が身を映し取った仏は、世の無常を觀じて自ら仏道に入つたのである。実はこの草堂の主は仏御前と言ひ捨て、女は消え失せた。(中入)僧は里の男から、仏御前のことを詳しく聞き、跡を弔う。その夢枕に、白拍子の出立ちで仏御前が再び現れる。そして舞の袖を返すと草木も靡き、さながら極楽世界の如くなる。「この世は夢幻の一睡の中、仏もあるまじ、まして人間もあらじ」と世の無常を示して消えてゆく。

老人夫婦の塩屋に一夜の宿を借り、主人の所望のままに師長が一曲弾じると、にわか村雨が降り来り、板庇を打って妨げる。すると老夫婦は皆で板屋を葺き、これで雨音と琵琶の音が同じ調子になりましたと言うので、師長は「この老夫婦が音楽を心得ている」と見て一曲を所望する。すると老翁は琵琶を、姪は琴をとり天楽を合奏する。師長はその神技に驚き感じ入り、国内には並ぶ者が無いとして、渡唐を思い立った己惚れを深く恥じ、秘かに立ち去ろうとする。老夫婦はこれを引き留め、実は自分達に現れた村上天皇と梨壺女御の靈であると言つて消え失せる。(中入)やがて村上天皇の靈が現れ、海中の龍神に命じて、龍宮に持ち去られた琵琶「獅子丸」を取り寄せ、これを師長に授けて秘曲を伝え、自らも輿に乗じて舞を舞い、飛行の車に乗つて昇天する。師長も琵琶をたずさえて都へと帰る。

次回予告

京都観世会十一月例会

令和5年11月26日(日)

午前11時開演

(能) 清経 梅田 嘉宏

(狂言) 隠狸 小笠原 由禰

(能) 班女 片山 伸吾

(能) 復曲 名取ノ老女 大槻 文藏

表紙写真

《仏原》河村和重

金の星渡辺写真場撮影

お知らせ

今後の状況の変化により、当日券販売の有無や催し物の内容変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。
「字幕解説サービス」専用端末は千円(税込)にて貸出いたします。

附祝言

(終了予定 四時頃)